

総務市民文教委員会市内視察報告書

市内視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

平成27年10月9日

光市議会議長 中 村 賢 道 様

光市総務市民文教委員会

委員長 中本 和行

副委員長 大田 敏司

委 員 木村 信秀（副議長）

委 員 笹井 琢

委 員 田中 陽三

委 員 西村 憲治

委 員 林 節子

委 員 森重 明美

委 員 四浦 順一郎

随 行 高木真由美（事務局）

記

- 1 研修年月日 平成27年9月25日（金）10時～12時10分
- 2 視 察 先 (1) 第9・10分団消防機庫
(2) (仮称)室積コミュニティセンター
(3) 峨嵋山
- 3 調査結果等 別紙のとおり（資料含む）

総務市民文教委員会行政視察調査結果

○第9・10分団消防機庫

1 日時 平成27年9月25日（金）10:05～10:30

2 調査事項
小型動力ポンプ車の配備状況等について

3 内容
第9分団・第10分団に、平成27年度の小型動力ポンプ積載車の配備や消防機庫の状況を消防組合の職員より説明を受け、現在の現場の状況を視察しました。





○（仮称）室積コミュニティセンター整備事業

- 1 日時 平成27年9月25日（金）10：50～11：10
- 2 調査事項
（仮称）室積コミュニティセンター整備工事の進捗状況の現地視察について
- 3 内容
平成27年度完成予定の（仮称）室積コミュニティセンターの進捗状況について、現地にて詳細な工事概要の説明を受け、現在、約87%の進捗状況を視

察しました。



○峨嵋山

1 日時 平成 27 年 9 月 25 日（金） 11：20～12：00

2 調査事項
避難路について

3 内容

高潮対策の避難路について、室積地区の地元から要望のある、峨嵋山への避難路について、どのような状況になっているのかを視察をしました。





<委員所感>

所 感（中本 和行）

小型動力ポンプの配備状況ですが、長きにわたり取り扱ってきた車両が更新され新車両が配備されたことにより、消防団は、地域おける消防防災活動に性能を発揮できることにより地域の安全・安心を確保できる。

今後、計画的に各団のポンプ車の更新及び機庫の整備も必要である。

次に、(仮称)室積コミュニティセンター整備工事の進捗状況の現地視察致しました。住民の主体性活動・自主的に運営される拠点施設であります。

現状は8割の完成でした。この地域にマッチした斬新な施設の完成が待ち望まれます。完成後の運営に地域住民が積極的に係っていかれる事を期待致します。

最後に、峨嵋山の避難路について、自治会や自主防災会が峨嵋山への避難場所と考えておられますが、避難経路の安全確認他、共助により支援の必要な人の援助を行うことは、急斜面と狭い道である為ここは厳しい状況です。再度関係各位で検討される事を望みます。地震発生から津波が到達するまで約 120 分かかります。

すぐ避難行動を起こせば、市の示している避難場所の方が適切かと思いました。

所 感（大田 敏司）

第9分団、第10分団の消防機庫並びに小型動力ポンプ積載車の配備状況の視察をしました。消防機庫は小型動力ポンプ積載車が入庫するだけの広さしかなく、休憩もできない中で消防団員の皆様は頑張って従事をされておられるのがよく分かりました。

また、第9分団の消防機庫は、川のすぐそばに位置し、万一の増水の際における対処をどうされるのだろうか、気になりました。

また、第10分団の消防機庫は交差点のすぐ側にあり小型動力ポンプ積載車の出入りが、とても困難だろうと推察されます。

また、小型動力ポンプ積載車は約15年位の周期で交換をされておられると聞き、万全に対処をされていると思われます。

今後とも住民に安全・安心を届けられますようお願いします。

また、有事の時に消防団員の方々が消火活動に駆けつけてこられた時に、駐車場がないのでさぞお困りだろうと思われます。休憩室も必要ではないかと思われま

す。次に、(仮称)室積コミュニティセンターの進捗状況を視察しました。約87%の出来高で、今後は仕上げの装飾と外構工事を残すだけであります。

消防機庫も大きく、隣には休憩室もあり、ホースを洗う場所も設置してあります。これからは、消防団員の皆様も快適に消防活動に従事できそうだと推察できます。

室積の住民の方々も、新しくできたコミュニティセンターを気軽に使用され、十分にご活用されることを期待しております。

最後に高潮対策、津波対策の避難道として、室積地区にある、峨嵋山の避難道について、現地の視察をしました。

峨嵋山の登山道は道が狭く急傾斜で、さらに、もう一か所の避難通路は道が分かりにくく、とても避難道と呼べそうにありませんでした。

住民の方々の思いは、近くの山に避難を、との思いは解りますが、万一の時に避難をされるのですから、避難道はある程度の道幅の確保の上で、誰にも分かりやすく、また、安全面を十分配慮した道路の整備がなされている、避難道を選択されるのが順当ではないかと思われます。

所 感（木村 信秀）

<第9・10分団消防機庫>

岩田地区第9分団消防機庫において、平成27年2月に配備された小型動力ポンプ積載消防車（軽四輪駆動 トラックタイプ車）を現地視察し、山間の道幅も狭隘な地区にとって極めて有効に消防活動しうる能力を有し、かつ機動的な性能を有していることの確認することが出来た。また、木造平屋建ての消防機庫は、平成3年12月に建設されている。団員にとってきわめて狭く非機動的であるように感じられた。三輪地区第10分団の消防機庫も平成3年12月に同時期に建設されている。12月には小型動力ポンプ積載消防車が導入予定である。この2地区の消防機庫が、この度のコンパクトシティ計画により、同所

に統合され各々の消防活動に寄与される旨の報告を受けたところである。今後、消防機庫の施設統合により、より機動的かつ、住民市民にとって安心安全に配慮され、きめ細やかな活動を行えることを期待したい。

<室積コミュニティセンター>

整備工事の進捗状況が、順調に進められていることを現地において確認することが出来、機能と内容の説明を受けた。これが、地域の核となり、今後光市の地域コミュニティ施設の礎となることを期待したい。

<峨嵋山>

山根町地区、池之原地区、室積小学校の津波対策における避難経路の確認と、地理的要因を確認した。確かに、予想を超える災害の想定外の想定をし、日頃より訓練をされているとの報告を受けた。しかし、峨嵋山への避難は傾斜が非常に急であり、また降雨状態では危険であるように感じられた。山口県での予想では光地区の最大潮位は3.6メートルとなっており、池之原地区自治会館の位置表示が4.2メートルであることから、光市が津波ハザードマップで示す通りのものを基本とし、地域住民の判断で計画を立てるのが最善ではないかと予見したところである。

所 感 (笹井 琢)

<消防団機庫>

平成26年3月に策定された岩田駅周辺都市施設整備基本計画では、消防団大和隊・消防団第9分団・消防団第10分団の消防機庫を、統合して複合型施設に併設する計画となっている。

今回の視察では岩田と三輪の分団機庫を視察したが、施設の老朽化に加えて敷地が狭隘で駐車場もなく、改めて統合の必要性を感じた。

<室積コミュニティセンター>

工事完了まであと少しとなったコミュニティセンターの現場見学である。

ガラス張りのロビーは開放感があり住民の立ち寄りが期待される。

大ホールの防音ガラスや、太鼓練習を想定している小会議室の頑強な構造を確認し、周辺防音対策への取り組みを感じた。

これまでの室積公民館と異なり、各部屋毎の施錠ができるようなので、物品の管理は安全となる反面、利便性が低下しないか注意が必要である。

自動販売機の設置について結論が出ていないが、住民が「ふらっと」立ち寄れる場にするためには必要な設備と感じる。

<峨嵋山>

本年に光市が作成した津波ハザードマップにおいて、室積地区の住民は千坊山・大峰山のある北東方向に避難することとされている。

しかし陸継島である室積半島南部には峨嵋山がある。

池の原自治会館は峨嵋山の山際にあり、津波からの避難において峨嵋山へ昇ることは至極当然であると認識した。

自治会館裏からの登口のスロープ整備が必要である。

山根町自治会の津波避難ルートは池の原口からの畦道であるが、現在は土砂で埋まり畦道入口が通行困難となっている。

過去には軽自動車も通行できた畦道であり、復旧が必要である。

室積小学校においても、学校内の生徒は15分の短時間で池の原口から峨嵋山へ避難することができるよう訓練されている。

峨嵋山方向への避難を想定した、津波ハザードマップの修正が必要である。

所 感（田中陽三）

＜小型動力ポンプ積載車の配備状況等について＞

第9、第10分団の消防機庫では、車両を入れると、隊員の皆さんが寛いだり、備品等を整備するスペースが無く、また、駐車場のスペースもない事から消防団の皆さんの苦勞を感じました。気になったのは、第9分団の場所は、溝呂井川が増水した時に川の水位がかなり上がると聞いた事がある点と、車両の新旧を見させていただきましたが、旧車両の処分については廃車との事でしたが、高性能なポンプも車両も、例えば農業用にも活躍できそうであり、この辺りはさらに調査が必要だと思いました。

＜（仮称）室積コミュニティセンター整備工事の進捗状況について＞

立派な施設で、地域住民の希望になりそうな雰囲気があり、ワクワクしながら視察しました。利用する立場の視点で見ると何点かあれっ？と思うところがありましたが、設計・建築の専門的な細かい事は分からないので、進捗状況を見守りながら完成を楽しみに待ちたいと思います。

＜峨嵋山への避難路について＞

地元住民の方々からお話もお聞きし実際に登山道を歩いてみましたが、かなり急で狭く危険な道で、本当に命を守るためにはどうしたら良いのか？自治会単位だけではなく、地域コミュニティ、行政、専門家も交えて、大きな視点と客観的な視点も入れて真剣に話をする場の必要性を感じました。

そういった事が地域コミュニティの活性化、絆づくりにつながり、これからのまちをつくっていくのだと思います。今回の現地視察がそのきっかけになればと思います。

所 感（西村 憲治）

＜第9・10分団消防団機庫＞

ア 両施設の敷地の狭歪さにびっくりしました。

イ 団員30数名が集合する駐車場がない。

- ウ 機材・車両を整備点検する場所がない。
- エ 出動後、着替えをする控室、ロッカーなどもない。
- オ 消防団機庫については、早急に広い場所での建て替えをお願いします。
- カ 小型消防ポンプ車は、新しい車両の機能充実に目を奪われました。走行距離（5000KM）は少ないけれども、20年経過の入れ替えは当然と感じました。

<室積コミュニティセンター>

- ア 建設経過良好で安心いたしました。
- イ 野外の屋根 鉄骨部分のさびが懸念されます。
- ウ 完成時にゆっくり拝見したいものです。

<峨嵋山遊歩道>

- ア 遊歩道は、清掃行き届いてなく、折れた枝・折れた幹などが散乱していました。通常の避難所としての適正は、以下の理由で難しいと感じました。
 - ①遊歩道は、急こう配で尚且つ1.2m幅で狭い。
 - ②通路は、葉っぱ・コケなどで滑りやすい。
 - ③夜間など照明がなく・雨などしのぐ場所がない。
 - ④清掃・倒木の撤去等 整備不良である
 - ⑤以上の理由から、緊急避難・ごく短い避難場所としては利用できるが、時間に余裕があれば別の場所を考えたい。

- イ 池ノ原の皆さんからの通路使用希望場所を拝見しました。

- ①自治会館付近の入り口の草刈は、可能だと思います。
 - ②峨嵋山のすそ野にある獣道を、東に90m進むとつづら折りの緩やかな獣道があります。入口もわかりやすく整備もされてなく、避難経路には不向きです。
 - ③入口から、西へ90mで杵崎神社の遊歩道がありますので、こちらの方がベターと思います。

- ウ 室積小学校避難経路について

峨嵋山遊歩道は、避難経路・避難場所としては不向きです。拝見し2次災害の可能性を感じました。津波災害の場合、時間の余裕が考えられますので、より安全なハザードマップ推奨の避難場所への優先的な非難訓練を、学校へは勧めてください。

所 感（林 節子）

平成27年9月25日（金）3カ所の視察をいたしました。

最初に、消防機庫第9分団および第10分団（岩田・三輪）の小型動力ポンプ積載車の配備状況等を視察しました。

第9分団には、平成27年2月 5,817,920 円の小型動力ポンプ積載車、軽四

輪駆動トラックタイプ（乗車 2 名）が配備。

第 10 分団には平成 27 年 12 月小型動力ポンプ積載車、軽四輪駆動デッキバンタイプ（乗車 4 名）配置予定。

地域の防災を担う両方への消防機庫はとても狭く、交通の多い交差点など出し入れも困難であると思う。

緊急時に即対応出来る広い場所に移転が望まれる。

次に、平成 28 年 3 月オープン予定の室積コミュニティセンターの整備工事の進捗状況について現場を視察することが出来た。

- ・敷地面積 3,733.75 m²
- ・延床面積 1,161.19 m²
- ・構造 鉄筋造・鉄筋コンクリート造の平屋建て
- ・建築工事費 3 億 9,528 万円（公園解体、工事監理業務、太陽光込 約 4 億 4 千万）

上記の様に全面平屋建ての造りで高齢者子供達も使用しやすさを重視。

大ホールは広く明るく、南側に分厚いガラスで採光十分に取り入れ災害時の避難場所としての機能が考慮されている。

特にトイレだが、洋式が多くあり、障害者対応のトイレも設置される。

今後、地域コミュニティーがより一層充実されていくことと思う。

最後に峨嵋山への避難経路について視察しました。

峨嵋山の経路は色々な登山入口が有り、山に登る路々には、木々が折れ、大きく育ち、折れ重なっていた。また、車椅子などの誘導が困難であると感じ、山への避難の大変さを知ることが出来ました。

所 感（森重 明美）

光消防団、第 9・第 10 分団の小型動力ポンプ車の配備状況を視察。

本年 2 月に第 9 分団の新ポンプ車配備、第 10 分団も年内に配備の予定。

双方とも軽四トラックタイプで約 590 万円。地域がら細い道に対応出来る小型車の走行が必要であり、野焼きや山火事の初期対応などの防災対策としても需要大。

機具庫の場所や狭さは気になる所だが、この 2 分団を統合してのより迅速な体制づくりが図られるとの事。

室積コミセンは 11 月末が完成予定であり、かなりイメージが見える。図書コーナー、談話コーナー、情報コーナーなどに合わせ会議室・防音室など一部の市民の占有物でなく、多くの多世代の居場所づくりやコミュニティー活動のエリアとして開花しそうだ。

避難路は、先の議会報告会での意見交換会で課題提言があり、現地視察が必

要と実施。自治会の皆さんによる小学校の避難路でもあることから、避難路入口付近の整備対策を要望されていた。

所 感（四浦 順一郎）

＜小型動力ポンプ積載車の配備状況等について＞

光市消防団第 9・10 分団（岩田・三輪、団員数それぞれ 35、32 名）の消防団機庫と小型動力積載車について視察。

最近市内に大火災はないが、緊張の続く消防団のご苦勞に感謝する視察となった。機庫はいずれも 19.87 m²と狭く、10 分団機庫は県道交差点にあり、迅速対応が求められる消防車両の出入りが不安全であろうと考えられるが、両消防分団機庫が統合され、建て替わる計画。

＜（仮称）室積コミュニティセンター整備事業＞

敷地面積 3,733 m²、延床面積 1,161 m²、工事費 3 億 95 百万円の鉄筋コンクリート造り平屋建ての同センターは 11 月末工事完了予定で、来年 3 月オープン。

大ホール 256 m²はイス席として 220 席程度で、隣接する和室は楽屋として利用可能に、そして災害時の避難場所に。男子トイレは小 5、洋式 2、女子トイレは洋式 6、障がい者用の多目的トイレなどと、新築施設は利便性にも富む。市内最大の人口で、唯一人口が増え続ける浅江コミュニティ協議会の関係者が、同センターを見学したならば「浅江公民館の建て替えはいつ？」となろう。

＜峨眉山＞

室積半島の標高 117m の峨眉山は、自然豊かで手ごろなハイキングコースとして、また 30 年以内に発生する確率が 60～70%といわれる南海トラフ巨大地震による津波の緊急避難場所としても注目されており、視察の対象に。

- 1 地元の二つの自治会関係者 10 数人が私たち視察議員を待っていて、この地域の避難場所に対する熱心な思いが伝わってきた。
- 2 光市の津波ハザードマップによると、津波緊急避難場所は少々離れているサンアビリティーズ光などになっている。
- 3 地元自治会や室積小学校は、津波緊急避難場所として峨眉山と決めている。
- 4 避難場所の指定という重要事項で、方針が異なっていることはよくないの
で、市と関係自治会、小学校との意見交換が必要ではないか。避難ルートの
整備についても、意見交換が必要では。
- 5 委員長が司会役を務め、めりはりのある視察運営が求められる。